第　２　回

『新庄市雪とくらしを考える連絡協議会』議事録（要約版）

●協　議

（会長）

協議に入りますが、雪に関する問題点、課題等について座席順に発言願います。

（区長協議会）

　私の地区では水防委員を作っておりまして、その中で対策を講じてまいりました。流雪溝は他地区に比べて整備されている方でありますが、問題として水が流れてこない、お年寄りにやさしい除雪、排雪体制をしっかり整え、水の流れる流雪溝を早急に整備してほしい。

（教頭会）

一つ目は、除雪基準に達せずに早朝除雪が行われず、その後に降雪があり通勤通学に影響がある場合は速やかに除雪の出動をお願いしたい。

二つ目は、交差点部に置かれた雪壁により見通しが悪く車が出て行けない、歩行者がいた場合など危険な為、こまめな除雪をお願いしたい。

三つ目は、歩道と車道の間に置かれた雪壁が危険である、学校でもある程度は対処しているが、限度があり、子供たちの安全な通学路を確保するため計画的なパトロールと排雪をお願いしたい。

　　　その他としまして、校内の除雪についてでありますが、学校行事として事前に届出

している日（授業参観・卒業式等）の除雪・排雪を計画的に行ってほしい。

（かもしかクラブ）

　　　道路脇に寄せられた雪壁により、駐車場から公道に出る際、見通しが悪く怖い思い

をしたことがあり、又、雪壁で児童が見難く事故にならぬよう、雪壁の除去をお願い

したい。

　　　道路除雪上しかたが無いとは思いますが、毎日除雪の置き雪を片づけるのが大変で

あり、将来を考えると体力的にも不安になる。

　　　流雪溝に関してですが、水が流れなかったり、流れたら水上がりになったり、雪を

処理できず困っています、住民のマナーの問題も大きいのかと思います。

　　　かむてん公園は冬期間雪が積まれ、入れないようになっている、雪国なので子供に

雪遊びをさせたいので、入れるように公園の除雪もしていただきたい。

　　　雪国であるがゆえに係る経費（高床式等）が多々あります、メリットが無ければ離

れていくのはあたりまえであり、国や県の雪国に対する減税をお願いしたい。

（国）

除雪作業では、できる限り雪を置かない除雪を心がけておりますが、どうしても間口に雪を置いてしまうことがあります。そのため、住民の皆様には玄関前の雪かきをお願いしているところです。

排雪作業は、機械にも限りがありますので、道幅が狭い所や交差点部などの交通量の多い所を優先的に行っている状況です。

凍結抑制剤は、路面が凍結しないように散布しておりますが、散布したからといって必ず凍結しないわけではありませんのでご注意願います。

最後にお願いとして、自宅の雪を歩道や車道に出す方がおりますが、通行の支障となり大変危険ですので止めていただくようお願いいたします。また、除雪作業中は大変危険ですので、除雪機械には近づかないようにお願いいたします。

（県）

除雪の出動基準についてでありますが、車道の新雪除雪は積雪深が概ね１０ｃｍ又は、越えると予想される場合に出動いたします。歩道に関しては概ね２０ｃｍ又は、越えると予想される場合に出動しております。

　　　尚、昨年度の除雪に対しまして、２６０件の苦情が寄せられ、主なものとして排雪運搬に関する苦情が約２７％となっております。

（市）

　　　市の雪対策の基本的な考え方は第２総合雪対策基本計画というのがあり、機械除雪と排雪を組み合わせてやる場所、機械除雪と流雪溝を組み合わせてやる場所と、二本立てでやろうという方針が定められております。

又、公共事業（補助事業）については、防雪柵の工事・消雪道路の工事・流雪溝の整備等、に補助金を使っている状況であります。

課題とか問題点については、玄関前の雪の問題と思います。地域そのものが高齢化してます、それを処理するのに困難であるということを耳にしております。現課としても対策案を考えていけたらと思っております。

（除雪業者１）

　　　年々、市民のニーズが高くなってきているというのが感想でございます。雪捨場の減少に伴い雪のやり場が無いというのが困っていることで、行政の方々と相談し置場を確保しながらシーズンを乗り越えて行きたいです。建設業者も高齢化に伴いオペレーターの不足というのが深刻な問題となっています。天候に合わせた作業員の手配が深刻になってきております。

（除雪業者２）

　　除雪で路肩に寄せられた雪というのは各家庭で処理していただくしかありませんが、高齢化が進む中で除雪する労力が少なくなり流雪溝の整備が必要と考えます。

（除雪業者３）

　　　市民の方からよせられる苦情の中で一番困ることは、今日雪降ったのになぜ除雪出なかったとよく言われることです。市の除雪のシステムを市民が理解していないのが原因と思います。市の場合は除雪のセンサーを使って要件にあった時だけ除雪のメールが自動配信されて、そのメールを受けなければ出動できないシステムになっているわけですから、１０センチになると見込まれる場合には出動指示は来ないわけで、人間で判断すればそのようなことにならないと思われます。

（民生委員１）

民生委員は月々一回高齢者の一人暮らし、あるいは老人宅に訪問し安否確認を行いその結果は、毎月月初めに市役所のほうへ報告しております。高齢者にとって雪問題は一番の問題で、玄関前の除雪、屋根の雪おろしについて説明を受けて、市の方も除雪に力を入れているとわかりました。ただし、一回申請したら、次年度から市役所へ出向かなくてもいいような形にできないか、逆に市役所の方から高齢者へ電話の確認で行えないか、そうできれば安心して住めると思います。それから、玄関前の除雪ですが、私の私案ですが消防団を活用して年寄りが安心して住めるような町にならないかなと思っております。

（民生委員２）

　　　萩野学園が４月から開校し、児童にとっては３００ｍくらい遠くなりました、歩道を除雪するにも大変な所です、桜の木で除雪できない所は、生徒が歩行するのに大変です。又、国道から駅までは除雪で道幅が狭くなり非常に危険です。学校に通う子供達だけの問題だけじゃなく親とかＰＴＡとかがなにかできないかと思っております。

　　　お年寄りは困ってます、除雪が出来ない家庭が増えていくと思います、金のある人は業者に頼んで、無い人は道路に出すしかありません。本当に新庄は住みよい町なのか、住みよい町にするにはどうすればよいか考えていく必要を感じております。

（座長）

　　　ありがとうございました。

　　　今日、ご欠席の二人のお書きになった問題点のまとめが資料にあるかと思いますが、これを事務局の方からご説明いただきます。

（事務局）

　・欠席の区長さんからのお手紙

　　　通学路、・一般歩道の安全確保と題しまして、通学路に空き家の屋根軒先から風で捲かれた雪が垂れ下がっている。例として雪の重みで屋根の雪止めが壊され道路まで流れ出た。特に老朽化している空家の雪止めの注意が必要。二点目としまして、信号機のある十字路の中にブルﾄﾞｰｻﾞによる雪の塊が横断歩道に置かれ二回三回と雪を掃かれると高くなり特に子供達の背丈では安全を確保できない状態になる。見えない方向から来る車の左折する所は、冷えている時は特に滑りやすくなっている。三点目としまして、生活道路をブルﾄﾞｰｻﾞで掃いてもらう時に、片方に民家が無いのにハイドバンを真っ直ぐにして掃いて行くので民家のほうに雪の塊が置いて行かれる。民家の反対側にハイドバンの調整をしてほしい。特に高齢者のいるところは、もう少し気を使ってほしい。

　　　四点目としまして、小路に面したゴミ収集所があるところは、小路の入口含め収集車が入れるような除雪の仕方をお願いしたい、収集業者の円滑な作業と労働の緩和になると思う。最後に五点目としまして、市道以外の除雪について、朝の必要な時間帯に来間に合わず、遅いと昼過ぎになる、生活道路も市道以外の道路も除雪については、除雪したから良いのではなく利用している方々の観点からお願いしたい。

・欠席の山形県トラック協会さんからのファックス

私どもトラック協会は、トラック事業の公共性・安全性を第一に考え、また、トラックの事故は社会的損害と影響が大きいことを常に認識し、トラックドライバーには常日ごろ、安全運転教育に力を入れております。冬の運転は、道路の状況により非常に危険を伴います、早朝、夕方から深夜にかけての凍結、圧雪、除雪により山積みされた雪の壁、また、高齢者や幼児が雪に滑り道路側に転倒してくるなどの状況もあります。また、除雪の時間帯、場所により道路の混雑も予想され、運行計画を立てることが難しいといった声も上がっております。狭い道まで、除雪の行き届いた安全で暮らしやすいまちづくりをお願いしたいと思っております。

（座長）

　　　以上で委員の方全員の意見を伺ったわけですが、どんなお話、ご意見が多かったかまとめさせていただきます。

一つには、除雪、雪降ろしなど高齢者の方が最も大変であり、いつまでも住んでいられないような原因になっているのではないか。

二つ目は、いろいろな除雪に関する補助制度がございますが、活用しやすいように、普及や改良ということも考えていただきたい。

三つ目は、除雪に伴う玄関前の置き雪ですが、これは高齢者だけでなく将来ここに住んでいられるのかという不安のもとになっている。

四点目は、流雪溝について、水がこないということと、反対に来ると水が溢れてしまうという両方の問題があって使用者のモラルの問題が指摘されました。

五点目は、通学路を中心とした歩道の安全な通行確保。

六点目は、道路除雪に関してはいろんな苦情のもとになっており、除雪する側の様々な条件の変化であったり、オペレーターが不足しているとか構造的なものもあるということもありました。

前回の協議会では、相談できる窓口が無い、民生委員だけでは地区の雪処理の対応に限度がある、地区ごとに雪の問題は違うのでそれぞれの地域で状況を共有するような手立てが必要であるというのが主なご意見でありました。

次回に向けて事務局の方で、どういった課題が出てきたか整理していただきたいと思います。今年度の取り組み課題を今日決めてほしいと事務局からのお話がありました。どういう取り組み課題にしていったらいいのかご意見をいただきたいと思います。

皆様からございませんようでしたら私の方で考えているものがございます、新庄というところは雪があるために人口流出が激しいと言うのが最初の原点で、それをどうやったら食い止めることができるかということだと思います。

二つくらい大きな課題があり一つは、高齢者又は一人暮らしでも安心して住み続けていくことができるような、確信がもてるような雪対策というのを総合的に考えていくことが大きなポイントであるというのが一点目です。

二点目は将来を見据え、子育てが雪の中でも安心してできるか、集約的には通学路の問題とか、総合的に雪の中で子育てしやすいまちづくりを考えていくことも大きなポイントなのかなと思います。

今年の課題を見つけるのは難しいとは思いますが、例えば「高齢者になっても住み続けられるまちづくり」とういったことをテーマとして掲げれば、またのその中で様々な課題が位置づけられていくのかなと思います。来年度も続くんであれば「子育て」ということもいいですし、その先まで行くとすれば「地区・町内みんなで助け合いながら計画を作って雪に取り組んでいく」ということもありうると思います。

（民生委員）

桜通りの消雪道路の歩道の除雪についてですが、県道のパトロールやってると思いますが、雪の状況を確認していただいてますか。

（県）

　　雪の降り具合で判断し確認しております。

（除雪業者）

　　　桜通りに関しては桜の木があって県から借りている除雪車では除雪しきれない箇所もあって、児童の足踏みで確保されている状況になってます。それで毎年、１、２回排雪は行っております。又、地域の人が自宅の小型ロータリで除雪していただいたというのが昨年度の状況です。

（座長）

　　　ぜひ、住民だけに任せないで支援しながら両立して除雪していくことが重要だと思います。

（民生委員）

　　　家が無いところは除雪されていないので、ＰＴＡに働きかけて除雪する方法もあると思います。働いてる親が大半で大変だと思いますが、計画的にできないか、忙しいでしょうけど、市や県に任せないで何か出来ないかなと思いますね。

（座長）

　　　他のところでも、ＰＴＡとか父母が動かないのに困っているようですね。働き盛りで忙しいというのもあると思いますが考えないといけないですね。

（国）

除雪に関しては、年間何十件と苦情を寄せられておりますが、できる限り円滑に進むように指示をしている状況ですのでご理解いただければと思います。

先ほど流雪溝に関して、水がこないという話がありましたが、雪の投げ方に問題があるかもしれません。他の地域の事例として、地区で協力会を作って投雪の時間や投げ方などのルールを決めて実施した結果、水不足や水上りなどの問題が解消されている例があります。

雪への対応については、除雪機械などのハード面だけに頼って対応していくのでは限界があると思います。地域でのルール作りも含めて地域で取り組んでいくことが大切だと思います。

（座長）

　　　流雪溝作る前に管理組合を作ったことが成功の定石だと思います。新庄市ハード的に整備されてきていますが、整備する側と使う側の一体性がたりないのかなと思います。

（区長）

　　　都市整備課と私ども地域の方でやっている松本堰サミットというものがります、その堰で、隣接する町内が主体となって、水のルール決めとか川をどうして守っていったらいいかとか、雪捨てのモラルの問題に取り組み今年で三回目となります。地域自体が連携していかないと解決できない問題があるので、他の地域もやっていくような形につながっていけばいいと思います。

（座長）

　　　これからの進め方について検討いただきたいと思うんですが、まず今のご質問のどういうアイディアを出すのか、それともうひとつは何を優先するかですが、要望をどう解決していったらいいかという部分が少ないと思います、次回は、どうやって行けば解決につながっていくのかというアイディアを出していただくとになります。その上で、市として取り組めるのか、除雪計画に盛り込めるものって言うのはいったいどういうものがあるのか考えていく。そこで、取捨選択が出てくる可能性はあると思います。他に何かございませんか。

（民生委員）

　　　除雪に関する地域の協力体制をどうするか、雪もひとつの災害です、雪に対する組織作りもしていかなければいけないと思います。

（区長）

　　　新庄市では自主防災が震災以降できましたが機能していないのが実情です。結局、動かないと、地域に沿ったものじゃないと、組織作りについても地域にあわせた組織作りをしていかないと結局、机の上で書いたものになってしまいます。

（座長）

　　　自主防災組織で、雪処理を行っても全然かまわないですよ。ただ雪というのはなかなか町内全体の共通の課題として取り組めないところがあります。大まかなテーマとして高齢者になっても安心して住み続けられるかということですと、でてきたものの中で優先度はつけられると思います。

（市）

　　　先ほど、会長の方から高齢者になっても安心して暮らせるような街づくりと、もうひとつが子育て世代が安心して生活できるというこのふたつの目標とすべき将来像を考えていただいたわけですね。その目標に向って何の雪対策を手段とするかという部分だと思います。その手段が初期的な手段ではあまりにも年数を使う手段では対応策には成りづらい、短期的な手段として何がやれるか、いろいろな手段を組み合わせていけばベストなのかと考えます。

（座長）

　　　高齢者がそこで長く暮らしていける手法で間口除雪をするとかは、緊急にできる手法としてでてくるわけですね。機械除雪と流雪溝を併用しているところと、機械除雪できちんとやるところ地域の違いはあると思いますが、やはりきめの細かいやり方というのを誰がどういう形でやるかというのは十分考えられることだと思います。

（民生委員）

　　　モラルの問題があると思います。これは短期的には無理だとしても、自分さえよければいう考えを直していかなければならないと思います。

（座長）

　　　モラルだけを問題にするとなかなかむずかしいですね、どういう状況でそういうことをするかっていうのがある程度理解できると違ってくると思います。

（民生委員）

　　　地域で話し合うような場所が必要だと思います。

（座長）

　　　そういうことを話す場所を作りましょうということでもいいと思います。それと高齢者とは違う話になりますけど過去にいろいろ高齢者の生活を調べたときに雪おろしが一番大変だというのもあります、外出も大変で外出は歩道の問題と関わってきます将来的なまちづくりの問題ですぐにできないにしても、高齢者が安心して過ごすためにはかかせない問題かなと思います。

今までと違うやり方でみて何かできないかというのが私の考えです。市だけに任せないで地域でやるべきだということが答えとして出てくるかもしれません、委員としてはアイディアをだしていただければいいと思います。

次回のテーマとしましては｢高齢者になっても住み続けられる方法・手法を考える。｣ということで、アイディアをつのるという形にさせていただきたいと思います。